

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2022年第17週 2022年4月25日（月）～ 2022年5月1日（日） 2022年5月9日作成

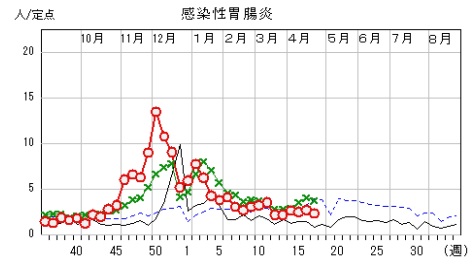
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） 感染性胃腸炎

第17週の報告数は103人で、前週より15人少なく、定点当たりの報告数は2.34であった。

年齢別では、1歳（20人）、2歳（16人）、3歳（12人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（5.00）、佐世保市保健所（4.00）であった。

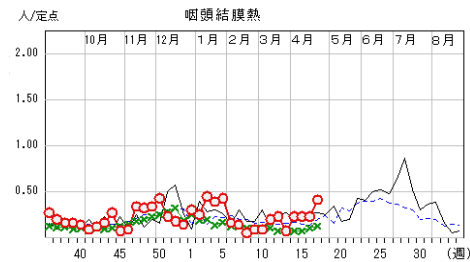


（2） 咽頭結膜熱

第17週の報告数は18人で、前週より8人多く、定点当たりの報告数は0.41であった。

年齢別では、1歳（9人）、2歳（3人）、1歳未満および10～14歳（2人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（2.33）であった。

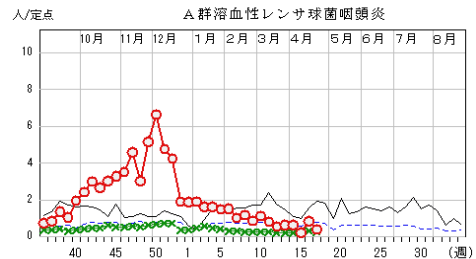


（3） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第17週の報告数は17人で、前週より20人少なく、定点当たりの報告数は0.39であった。

年齢別では、2歳（3人）、6歳（3人）、3歳（2人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（1.80）、対馬保健所（1.50）、五島保健所（1.00）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
× 当年(全国) 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第17週の報告数は103人で、前週より15人少なく、定点当たりの報告数は2.34でした。地区別に見ると県央地区（5.00）、佐世保地区（4.00）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【咽頭結膜熱】

第17週の報告数は18人で、前週より8人多く、定点当たりの報告数は0.41でした。地区別にみると県北地区（2.33）は他の地区より多く、警報レベル開始基準値「3.0」に迫っています。感染予防に努めましょう。

本疾患は、発熱・咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）および結膜炎を主症状とする急性のウイルス感染症です。原因の多くはアデノウイルス3型ですが、4、7、11型なども原因となります。年間を通じて発生しますが、特に夏季に流行します。感染経路は、飛沫感染、手指を介した接触感染であり、夏季にプールの水を介した結膜への直接侵入により感染する場合もあるため、プール熱とも言われています。治療は対症療法となる為、感染予防が重要です。手洗い、うがいや手指消毒を励行しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第17週の報告数は17人で、前週より20人少なく、定点当たりの報告数は0.39でした。地区別にみると県南地区（1.80）、対馬地区（1.50）、五島地区（1.00）は、ほかの地区よりも多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

★トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な時期です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。

春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期ですので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがありますので、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県感染症対策室 ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」
<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/>

（参考）国立感染症研究所 昆虫医科学部ホームページ「マダニ対策、今できること」
<http://www.niid.go.jp/niid/images/ent/PDF/170511madanitaisaku.pdf>

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2017	2018	2019	2020	2021
SFTS	11	4	8	6	6
日本紅斑熱	20	19	15	18	28
つつが虫病	8	8	1	11	14



